

ICT上での対話による多面的なグルーピングを通して、“よりよさ”を追究させる道徳授業の実践

〈背景と課題〉

- 道徳教育は児童の人格の基盤を養う上で重要であるにも関わらず他教科に比べ軽んじられてきた。
- 道徳教育の質的変容が求められる。
- 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導

〈教師が現場で感じる道徳授業での課題〉

- 全員の思考が見取りにくい。
- 特定の児童の発言のみで授業が進んでしまう。

・質の高い道徳授業の開発の必要性（問題解決的な学習など多様な指導方法を組み合わせる）
 ・学級全員の児童が自分の考えを表出でき、主体的・対話的で深びを実現する授業の必要性

〈目的〉

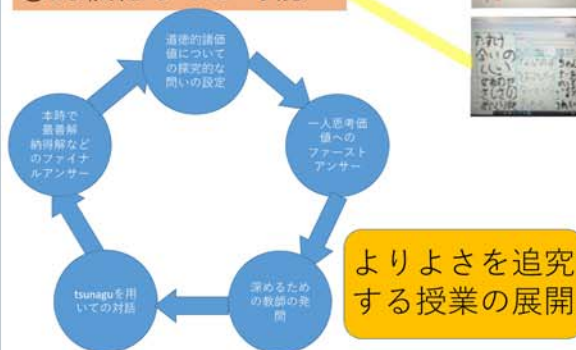
ICTを用いて友達の考えを分類する中で多面的に物事を考えたり、よりよい考えを追究しようとする姿を育む。それによりよい自己の生き方を児童は考える。本校で道徳授業で育む児童の姿を独自に、「物事を多面的・多角的に捉え、よりよい自己の生き方やよりよい社会の、在り方等について自らの考えを深められる力」と設定した。このような児童を育成するための道徳授業の開発を目的とした。

〈実践方法・内容〉

本校では独自に意見交流システムtsunagu(つなぐ)を開発。tsunaguシステムを対話の場面で用いることでICT上で学級全員の思考に触れ意味づけることで、自分と似た考えに共感する力やよりよさを追究しようとする姿で批判的思考がつく。また他者の様々な考えに触れることで、多面的・多角的に視野が広がると考えた。

◎つなぐシステムの特徴

- ①全員の思考を視覚化
- ②即時アンケート機能による数値化
- ③比較化などが可能



よりよさを追究する授業の展開

〈内容と結果〉

- 児童のICT上のグルーピングに多様性が見られた。
- 道徳ノートに自己の生き方について、多く綴る児童が増えた。
- 問いを自己で立てることで自分事として考える児童が増えた。

よりよい考えを追究しようとする視点

自分と似た考え、新たな発見、感動した意見など、マークをつけ、友達と自分の考えをつなげる視点



内容項目の視点

多面的・多角的なグルーピング

集団と個の視点

〈考察〉

実際の授業でICT上で意見のグルーピングをするように指示すると、大きく分けて四種類の思考パターンに分かれた。これはこのような種類に分類するように教師が指示したのではなく、児童が主体的に分類し、自発的に表れたものに対し、私が上記のように名付けたものである。よって児童は、意見交流システムtsunaguを用いてグルーピングしたことで、道徳的諸価値に対して、友達の考えから多面的・多角的に考える姿が見え、また友達の考えを吟味し、よりよさを追究しようとする中で、自己の生き方について深まる様子が道徳ノートから見られた。このような授業展開やICTを活用した対話もともに有効だと考える。問いからさらに問いが生まれるような深く思考しようとする児童を育むような授業を今後も開発していきたいと考える。

